



Sustainable Community Center Japan

NPO
New Public Organization
欲しいものは自分達で創る

2002 年度 活動報告書

2002 年 1 月 1 日～2002 年 12 月 31 日
(法人登記：2002 年 4 月 12 日)

2003 年 2 月 19 日

特定非営利活動法人
日本サステイナブル・コミュニティ・センター
<http://www.sccj.com/>

2002年度の報告と今後の抱負

★2002年度を振り返って

2002年度は sustainable（持続可能な）と組織名に冠しても良いと確信できる1年であった。

2002年4月特定非営利活動法人格を取得し、特定非営利活動法人日本サステイナブル・コミュニティ・センター（SCCJ）となり、SCCJ（日本サステイナブル・コミュニティ・センター）の活動を特定非営利活動法人として引き継いだ。

2002年度の事業の目玉はやはり「みあこネット」（京都街中公衆無線インターネットプロジェクト）である。2001年12月開催した京都研究会の具体的成果である「みあこネット」を2002年1月立ち上げ、無線基地局オーナーに通信費を負担していただくかわりに、ユーザは無料でインターネットが24時間使えるサービスを実施した。小規模な実験から始めたが、2002年12月末には基地局150局、ユーザ2,000人となり、各地の商業サービスを尻目に、日本最大の公衆無線インターネットエリアが京都府内で出現した。これはひとえに、本プロジェクトが地域コミュニティ密着型であったこと、皆が時間と智恵を持ち寄り、経費を分担するという“リスク分散型NPOプロジェクト”であったことから、結果的に賛同者を得ることができたと考える。NPOによる情報基盤整備事業として全国的に注目され、メディア対応に追われる日々でもあった。

「みあこネット」運用実験に忙殺されながらも、視覚障害者の為の音声によるキーボード練習ソフト「ウチコミくん」の姉妹版「ウチコミくん3D」（立体音声キーボード練習ソフト）も2002年6月には完成し、音に特化した情報バリアフリー推進団体e音ネット（SCCJより2001年4月独立）が2002年7月から「ウチコミくん3D」の販売を開始した。

また、過去3年にわたる「ウチコミくん」の開発で形成された障害者の情報化やアクセシビリティに関するコミュニティを背景に、2002年7月から財団法人大学コンソーシアム京都主催（SCCJ：企画・運営）による「WEBアクセシビリティ講座」を開講し、2002年度後半からアクセシビリティ審査基準をベースにした一連のアクセシビリティ市場を形成する基盤固めを行った。

SCCJが設立支援した愛きもの株式会社は、きものを個人から引き取り、インターネット上でオークションにかけ、落札された金額を個人に還元している。SCCJは、愛きものがコミュニティに根付くよう、広報コンサルテーションを行っている。2002年度は、その仕組みを更に発展させ、個人から提供されたきものの落札料をNPOに還元するという、新たなサービスを開発。第一弾として、2002年12月初旬より「京都ライトハウス改築チャリティ・プログラム」を始めた。マスコミによる取材も手伝って、開始からわずか3週間の間に600点を超えるきものや帯の提供があった。物品寄付の可能性と企業の商業活動の円滑な連携に手ごたえを感じた。

★4年たって見えてきたもの

1999年度視覚障害者のインターネット講座を、京都市生涯学習センター（京都アスニー）が広報、受付、SCCJが企画・運営人材は障害者や高齢者に対する情報化に関心のある団体や個人から募り、経費は講座収入から回すという、自立モデルで行った。また、各種研究会も毎月行い、発想の転換を図りつつ、急速にはではないが、確実にSCCJコミュニティが形成されてきた。1999年試行錯誤しながら行ったリスク分散型事業の組み立て。これをSCCJのDNAというのであろうか。みあこネット立ち上げでも、この精神は遺憾なく発揮され、無線インターネット商業サービスが停滞する中、NPOによる“無銭”ネットエリア創造のムーブメントが拡がっている。

SCCJは社会性のある事業を立ち上げる組織である。無機質な議論よりも、まず行動。想いをかたちにするため、「欲しいものは自分達で創る」をポリシーにしている。もちろん、多くの方々の励ましやアドバイスがあったからこそできることである。これからも真摯に皆様からいただくご意見に耳を傾け、堅実に活動を進化させていきたい。

特定非営利活動法人 日本サステイナブル・コミュニティ・センター
代表理事 高木治夫

センター事業活動実績

1. みあこネット

<http://www.miako.net/whats.html>

情報インフラ整備を NPO が中心となって展開する例は、全国的にも珍しいだけに、各種取材が相次ぎ対応に追われる日々であったが、その甲斐あって、「みあこネット」は無線インターネットのアクセスエリアとしては日本一となり、IPv6 の実験フィールドとしては世界最大である。当初の運用実験期間 1 年間延長し、本プロジェクトは 2003 年 12 月末まで行われることが決定。更に期待が高まっている。

★概要

■京都市民自らが費用を負担して街中に公衆無線インターネット（無料）の環境を整備

アクセスポイント数：約 150 局

規格：IEEE802.11b 2.4GHz

実施時期：2002 年 4 月～2003 年 12 月

利用者：約 2000 人（2002 年 12 月 31 日現在）

実行主体：S C C J

協力団体、企業：京都大学、(財)京都高度技術研究所等

★みあこネットのサービス

街中、好きなところで無料高速インターネット接続！（最大速度 11Mbps）

観光スポット等、アクセスポイント毎に固有の街情報を受信可能（ここのすえサービス）

どこからでも情報発信が可能（端末ごとに固定のグローバル IP アドレスを付与）

障害者にやさしい情報環境づくり（アクセスポイントラインサービス：カメラ付き PDA により、ネットを介して視覚障害者をガイド）

★みあこネットの経緯

■2002 年 1 月 名称を「みあこネット」と決定し、京都大学、ASTEM（京都高度技術研究所）や kyoto-Inet、kyoto-Pnet と連携して、プロジェクトを立ち上げる

■2002 年 1 月～2 月 アクセスポイントオーナー 100 局の募集を開始

■2002 年 3 月 26 日～28 日 「ケータイ国際フォーラム」に出展

みあこネットの概要を発表したほか、ロゴの公募を行う

■2002 年 4 月 京都駅ビルを皮切りにアクセスポイントを順次開局

■2002 年 5 月 10 日 「みあこネット」を正式スタート

■5 月 11 日 新風館で正式運用を記念し「みあこネットオープンフェスタ」を開催

■2002 年 6 月 予定したアクセスポイントの開局がほぼ完了

■2002 年 6 月 28 日 設立を記念し、東京渋谷にて「SCCJ フェスタ」を開催

■2002 年 7 月 祇園祭にあわせて、「ここのすえサービス」の実験を開始

■2002 年 9 月 商品化・新事業可能性調査事業（「平成 14 年度 新事業推進企画・調査事業」）調査に採択される

■2002 年 9 月 26 日 実験期間を 2003 年 12 月末まで延長することを決定。また、100～200 力所のアクセスポイント増設予定を発表

★みあこネットのこれから

基地局を 300 カ所（最大目標 1,000 局）まで増設。使いやすいシステムの改良を行いつつ、多様な無線 LAN カードに対応することをはじめ、基地局の設置に関する技術的ハードルを低くするなど利便性の向上をはかる。2003 年度においてはインフラ整備のネクストステップ事業化の可能性を積極的に探っていく。

★みあこネット関連研究会

2002 年 9 月 28 日 13:00-17:30

コミュニティ・フォーラム『公衆無線インターネットとコミュニティ・ビジネスの可能性を探る』

<http://www.sccj.com/forum/2002/>

地域コミュニティの情報化、情報化時代のコミュニティ・ビジネスについて、現状と課題、可能性に関して活発な議論を行った。

- スピーカー： 公文俊平氏（CAN フォーラム会長/
国際大学グローバル・コミュニケーション・センター所長）
辻 正次氏（大阪大学大学院国際公共政策研究科教授
KANSAI@CANフォーラム主査）
岡部寿男氏（京都大学学術情報メディアセンター教授）
國領二郎氏（慶応義塾大学大学院経営管理研究所教授）
伊達浩憲氏とゼミ生（龍谷大学経済学部 助教授）
道譯健之氏（有限会社アイエス 代表取締役）
諸江 洋氏（片町商店街振興組合 専務理事）
和崎 宏氏（インフォミーム株式会社 取締役社長）

2. 「ウチコミくん」事業

視覚障害者の為の耳で覚える「ウチコミくん」の姉妹版「ウチコミくん3D」（立体音声キーボード練習ソフト）の開発を行い、2002 年 7 月から、音に特化したアクセシビリティ向上に取り組む e 音ネット（2000 年 SCCJ が設立）で販売を開始。「ウチコミくん」1 周年、「ウチコミくん3D」販売開始を記念して、東京で『SCCJ フェスタ de 渋谷』を行った。

日時：2002 年 6 月 28 日（金） 18:40-20:30 30 名参加

場所：TITTY BOO SHIBUYA PARK SHOP ティティブー渋谷パーク店

内容：ミニレクチャー（それぞれ 20 分程度）

- ・CAN フォーラム 公文俊平 会長 「無線インターネットの今後」
- ・京都大学 岡部寿男 教授（京都大学学術情報メディアセンター）
- ☆体験コーナー
 - ・「ウチコミくん3D」デモ及び体験
 - ・みあこネット「こことすえサービス」体験

3. エココミュニティ事業

●エココミュニティ研究会と SCCJ サロン

2002 年度 <http://www.sccj.com/cgi/ecommunity/eco2001.cgi>

持続可能な経済(Sustainable Economy)、持続可能な社会(Sustainable Society)、持続可能な環境(Sustainable Environment)、持続可能な地域固有の文化継承・形成に向けての研究と実践。

* 各種研究会詳細報告書を会員専用ホームページにアップし、会員特典としている。

2 月 3 日 21 名	『社会起業家』 町田洋次氏（ソフト化経済センター理事長代理）
3 月 10 日 16 名	『e 社会を考える』 辻 正次氏（大阪大学大学院 国際公共政策研究科長/ KANSAI@CANフォーラム主査） 岡部寿男氏（京都大学大学院情報学研究科知能情報学専攻助教授）

3月11日 20名	『ミッション経営と市場の失敗』 根来龍之氏（早稲田大学商学部）
3月30日、31日 20名	『無線インターネットの可能性』フォーラム in 黒部 東京、富山、関西からの参加者による意見交換会
5月1日 24名	『e 社会の市民メディアを楽しもうー元気なヨーロッパの市民テレビに学ぶ』 津田正夫氏（立命館大学 産業社会学部（メディア情報学系）教授）
6月19日 28名	『ビル・トッテンさんを困んで、京都のまちを語ろう！』 ビル・トッテン氏（株式会社アシスト 代表取締役）
7月6日 6名	『ウチコミ君の販売施策を、太田さんと一緒に提言してみる会』 太田秀一氏（SCCJ 理事/経営コンサルタント）
8月10日、11日 12名	地域情報化視察ツアー（金沢、富山） 金沢片町商店街、黒部三日商店街
9月3日 22名	『みあこ物語 京都の観光とまちづくり』 宗田好史氏（京都府立大学人間環境学部環境デザイン学科助教授）

4. 京都研究会

情報、ベンチャー、NPO で創る社会インフラや新しい社会、未来型組織の形に関する研究会。今年で4回目を迎えた。この研究会は情報化によるオープンプラットフォームを機軸に、SCCJの一年の成果やその年の情報を切り口とした旬なテーマを設定している。

2002年12月6日開催された京都研究会では、今後「みあこネット」オープンプラットフォームが進むべき方向性について徹底的に議論した。

また、11月19日京都研究会直前研究会を開催し、京大大学経済学部末松千尋助教授に『みあこネット実現に向けての課題と解決策』というテーマで、来年度の事業化の可能性に関しての多角的な分析と、アドバイスをいただいた。

★「くにづくり」は京都から 第4回 京都研究会

『公衆無線インターネットで広げる京都のしつらえ空間 - 新産業創造を目指して』

2002年12月6日 13:00～ 参加者 70名（ボランティアスタッフ含む）

<http://www.sccj.com/kk/2002/>

スピーカー： 今井 賢一（スタンフォード日本センター理事）
 新川 達郎（同志社大学大学院総合政策科学研究科教授）
 中村伊知哉（スタンフォード日本センター研究部門所長）
 今川 拓郎（大阪大学大学院国際公共政策研究科助教授）
 辰巳 治之（札幌医科大学・医学部教授）
 藤川 賢治（京都大学大学院情報学研究科知能情報応用論分野助手）
 高木 治夫（SCCJ 代表理事）
 池田 信夫（経済産業研究所上席研究員）
 佐々木裕一（(株)NTT データ経営研究所チーフコンサルタント）

19:30 夜塾

ミニトーク
 國領 二郎（慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授）

★京都研究会直前研究会『みあこネット実現に向けての課題と解決策』

2002年11月19日（火） 19:00-21:00

場所： 竜馬通商店街 竜馬館2F（京都市伏見区塩屋町239-1）

<http://www.joho-kyoto.or.jp/~ryoma/#>

スピーカー：末松千尋（京都大学大学院経済学研究科助教授）

5. 愛きものコンサル事業

きものの循環サイクルをつくり、若者に伝統文化やきものの良さを知ってもらおうと設立された愛

きもの株式会社も、今年で3年目を迎えた。SCCJでは、効果的なNPOと企業の協業体制を検証しつつ、各種企画のコンサルテーションを行った。

今年度活動内容は以下の通り。

■「着物 de まちあるき」

日時：平成14年11月16日(土) 13:00~16:00

参加者 70名(当日ボランティアスタッフも含む)

<http://www.kimono-kyoto.org/machi/>

去年はきもの愛好家有志で小規模な「きもの de まちあるき」イベントが開催された。今年は「きもの de まちあるき実行委員会」をつくり、愛きもの代表取締役谷田氏が委員長となり、一般参加を広く呼びかけ、SCCJは、この企画の運営に当たった。

概要：おしゃれスポット室町界隈をきももので歩きながら、きもの感動をインターネットで世界に向けて発信。その模様を、新風館(四條烏丸)、God Mountain インターネットステーション(四條新京極)ニカ所の大スクリーンに映し出した。着物のよさや、きものメッカ・室町を広くアピールした。

宣伝波及効果：各種メーリングリストでの告知(数十万人)

当日情報発信：コミュニティFM、インターネット中継を通じて全世界に向けて情報発信

■「eきものNPO支援サービス」を2002年12月から開始

<http://www.i-kimono.com/japanese/magazine/index.html>

<http://www.i-kimono.com/japanese/magazine/e-npo.doc>

京都ライトハウス 改築寄付 きものチャリティ・オークション

<http://web.kyoto-inet.or.jp/org/kyoto-lh/>

愛きもの設立当初から、着なくなった着物を良い事に使ってもらえるなら、ただで引き取って欲しいという高齢者からの要望が根強くあった。そこで、それぞれの思いが詰まっているきものを個人から引き取り、インターネット・オークションにかけ、落札された金額を個人に還元し、愛きものはオークション代行手数料で収入を得ている(3000円の定額代行料+落札価格の15%)。今回、その仕組みを更に発展させ、多くの人に安心してきものを提供してもらい、落札料をNPOに還元するという新たなサービスを始めた。

本サービスの第一弾として「京都ライトハウス改築チャリティ・オークション」を2002年12月初旬から開始。告知後開始からわずか3週間で600点を越えるきものや帯の提供があった。

6. 各種メールマガジン発行

各種事業のテーマと対象者の関心が違ことから、オーディエンスに対応したメールマガジンの発行を2002年度から開始した。

OSCCJ 会員専用メルマガ

2002年5月15日(水)から12月21日(土)まで3回発行

○みあこオーナー用メールマガジン

2002年3月25日(月)から12月20日まで28回発行

○みあこユーザ情報メールマガジン

2002年5月23日から12月20日まで22回発行

7. 各種メーリングリスト運営 (eGroups 利用)

現在、テーマ、目的別のメーリングリストで、1,300人ほどがネット上で協働作業や情報交換を行っている。その中でも一般広報用メーリングリスト aibousan は、誰でも入れる双方向型のメーリングリストで、登録者数は、2002年12月末には616名となった。設立当初の1999年は190名、2002年度末には380名と、活動の広がりのバロメーターとも言える。

8. メディア露出度

2002年度はみあこ関連記事は、東洋経済、各種日経メディアのほか多数取り上げられた。

<http://www.miako.net/media.html> 事務局で把握しているだけで、約60。

みあこネットのほかにも、以下のような記事が取り上げられた。

■新聞・雑誌

- ・目立つ起業支援型 近畿の NPO、1000 を突破
(日本経済新聞・近畿経済・京滋版／2002 年 6 月 12 日)
- ・ニュービジネスの動向
(京まち工房 No.20 [(財)京都市景観・まちづくりセンター編集・発行]) /
2002 年 9 月)

- ・コミュニティ・フォーラム
(京都新聞／2002 年 09 月 29 日)

無線 LAN で地域活性化 京でフォーラム

<http://www.kyoto-np.co.jp/kp/topics/2002sep/29/W20020929MWA2K1C0000013.html>

- ・NPO は業を佐く(たすく) 営利×非営利で新境地の VB たち
(週間京都経済／2002 年 11 月 25 日)

- ・京都研究会
(京都新聞／2002 年 12 月 7 日)

「公衆無線」の未来探る NPO が京都で研究会

<http://www.kyoto-np.co.jp/kp/topics/2002dec/07/W20021207MWA2K1I0000014.html>

- ・うちこみくん 3D

未踏ソフトウェアの展示会「ITX-2002 Summer」が開幕

(ZD Net News／2002 年 6 月 28 日)

http://www.zdnet.co.jp/news/0206/28/nj00_itx2002.html

- ・アクセス・ホットライン・サービス

(京都新聞／2002 年 1 月 25 日)

カメラ携帯で京都観光ガイド 東山区一帯で外国人に

<http://www.kyoto-np.co.jp/kp/topics/2003jan/25/W20030125MWD1K100000131.html>

- ・みあこネットと絡めて

NPO によって加速する草の根ネットワーク<第 12 回 地域ぐるみの無線 LAN 実験「みあこネット」(京都)>

(RBB TODAY 3P 目／2002 年 7 月 15 日)

<http://www.rbbtoday.com/interview/rbbtoday/20020715/page3.html>

9. 寄付

(敬称略) 浅野令子 36,100 円 愛宕成 10,000 円 米国ワシントン州社会科教師会 20,000 円

10. 会員について (2002 年 12 月末現在)

SCCJ	個人会員	87 名 (2000 年度 49 名)	団体	1
	企業会員	2	株式会社ネットイン京都、愛きもの株式会社	
みあこネット	企業会員	3	オムロンフィールドエンジニアリング株式会社 株式会社アイオデータ機器 松下電器産業株式会社	

11. 助成金

- ・平成 14 年度新規成長産業連携支援事業 (コーディネート活動支援事業) 5,760,000 円
(全国中小企業団体中央会)
- ・「平成 14 年度 新事業推進企画・調査事業」) 調査採択
(財団法人京都市高度技術研究所 (ASTEM))
* 調査費用は ASTEM から SCCJ 事業調査担当の京セラコミュニケーションシステム株式会社に
全額支給される。400 万円程度。

II. センター運営に関する活動

1. 法人格取得

2002年4月12日法人登記完了。

特定非営利活動法人日本サステイナブル・コミュニティ・センター、通称名 SCGJ となった。

2. 理事会の開催

○第1回理事会

日時：2002年5月2日

会場：SCGJ オフィス

○第2回理事会

日時：2002年5月20日

会場：太田秀一オフィス（東京）

○第3回理事会

日時：2002年5月27日

会場：SCGJ オフィス

○第4回理事会

日時：2002年6月24日

会場：SCGJ オフィス

○第5回理事会

日時：2002年7月22日

会場：SCGJ オフィス

○第6回理事会

日時：2002年9月2日

会場：SCGJ オフィス

○第7回理事会

日時：2002年10月7日

会場：ソフト化経済センター（東京）

○第8回理事会

日時：2002年10月28日

会場：SCGJ オフィス

○第9回理事会

日時：2002年11月25日

会場：SCGJ オフィス

○第10回理事会

日時：2002年12月24日

会場：SCGJ オフィス

3. 事務局体制

(1) 職員（2002年12月末現在）

常勤：2名

専務理事・事務局長：浅野令子

プロジェクト・コーディネータ：隅岡敦史

非常勤：1名 若生麻衣

(2) インターン

大学コンソーシアム京都からインターン2名を受け入れた。（2002年8月～9月）

(3) アソシエイトプログラム「自分づくり」を目的として集まる方々に、SCGJをサロンとして開放するアソシエイトプログラムを2002年10月から開始し、1名に対し2002年12月末まで起業化に関するOJTを行った。

(4) ボランティアスタッフ のべ人数：約100名

SCGJ会員を中心として、特別企画にはボランティアが参画し、企画運営を行った。

4. 理事、監事、顧問

代表理事	高木 治夫	(株) ネットイン京都 代表取締役
理事	竹原 司 副代表理事	デザインオートメーション (株) 代表取締役
	新川 達郎 副代表理事	同志社大学大学院 総合政策科学研究科 教授
	太田 秀一	CRM コンサルタント
	浅野 令子 専務理事	SCCJ 事務局長
監事	三木 秀夫	弁護士・大阪 NPO センター理事
顧問	跡田 直澄	慶応大学 商学部 教授
	今井 賢一	スタンフォード日本センター 理事 京都府中小企業総合センター所長
	大村 皓一	宝塚造形芸術大学 大学院映像造形学科 教授
	國領 二郎	慶應義塾大学大学院 経営管理研究科 教授
	辻 正次	大阪大学大学院 国際公共政策研究科 教授
	町田 洋次	社団法人 ソフト化経済センター 理事長代行
	山内 直人	大阪大学大学院 国際公共政策研究科 教授